

の重点

差別は無知から生まれる・・・人権に対する理解を深めましょう。

- 自分に人権があるのと同じように他の人にも人権があります。人権問題は、全ての人の日常生活にかかわっている問題です。まずは、「人権とは何か」「身近なところに人権問題はないか」等、人権について関心をもちましょう。
- 人権について正しく理解するためには、自由、責任、正義等の諸概念や人権の歴史、基本的人権、様々な人権問題などについて、深く学ぶことが大切です。
- 神奈川県では「かながわ人権施策推進指針（改定版）」において、分野別施策として、「子ども・女性・障害者・高齢者・患者等・同和問題・外国籍県民・ホームレス・犯罪被害者等・北朝鮮当局によって拉致された被害者等・様々な人権課題」の11課題をあげ、人権問題の解決に向けての取組の方向性を示しています。

明日か

交流を重視した学び ～県立上矢部高等学校～

地域の障害者福祉施設職員の講話や利用者との交流を通して、社会福祉制度について理解し障害についての考えを深める目的で、1年生を対象に「交流会」を開催しています。「家庭総合」で事前学習をし、当日は生徒の司会進行のもと、利用者の活動紹介ビデオ視聴や質疑応答を通して、交流を深めました。

生徒の感想

自分の家の近くに、障害がある人の働いているパン屋さんやうどん屋さんがあるけれど、今までは特に何も考えないで食べていた。今回一つひとつの仕事を手際で行っていることを知って、これからはそういうことを考えながら食べようと思った。

1年



交流会の様子

一方的な知識の伝達にならないよう、協力的、体験的な学習を意識して取り入れた実践です。また、陶芸部の生徒が小学生に陶芸を教えたり、自治会の夏祭りの手伝いをしたりするボランティア活動等もあり、地域と積極的に交流を図っています。

教職員の人権感覚を高める工夫 ～県立三ツ境養護学校～

人権教育の研修会等で学んだ情報をニュースレター「じん・けん・ぼん」に記載し、学校全体で共有しています。

教職員の感想

「じん・けん・ぼん」は、人権を固いイメージで捉えるのではなく、身近なものとして多角的に理解するきっかけとなっています。

「じん・けん・ぼん」が発行され、それを目にするを通して、人権意識の向上に大きくつながった。

教職員が自分の人権感覚を確認するために、知的障害施設利用者権利宣言「あおぞら宣言」を元にアンケートを作成しました。このアンケートは自分とともに他の教職員の人権感覚に目を向けることも意図して実施しました。実施後は、結果を踏まえた意見交換を通して、学部や個人の課題を捉えることができ、日々の指導の改善に結びつけています。

【人権感覚アンケート 一部紹介】

項目	自分のこと				まわりのこと			
	◎	○	△	×	◎	○	△	×
1. 児童生徒個々の障害を理解している								
① 学習をした								
② 障害特性に応じた手だてをとる								

人権教育に関する理解を深めるための情報提供やアンケート実施等、教職員の人権感覚を高めるための取組が工夫されています。

教職員の人権感覚は生徒に影響を与えます。常に自分自身の人権感覚を見直すことが大切です。